

2021 年度 S1S2 復興デザイン学

月曜 6 限 1845-2030 @Zoom オンライン開催

担当：本田・大月・福田・横張

浦田・萩原・北原・羽藤

- ・復興や事前復興に関わる各分野の研究や事例に関する講義をもとにその実態・課題について理解を深めるとともに、復興プロセス全体や多様な時空間的領域の関係・接続（あるいは分断）について俯瞰的に理解し、今後の復興デザインを考えるにあたって重要と考えられる事項について議論を深める。

#### 【講義の進め方と課題】

- ・講義 4 回ずつの 3 パート + 最終回に分けて進行する。
- ・課題として中間レポート 3 回 + 最終レポートを提出すること。

#### A) 通常講義（各パートの 1～3 回目）

- ・各講師が指定する参考文献（5 本程度）を参照し参加する。
- ・講師からの講演（50 分程度）ののち、各講師が設定する問い（議論テーマ）について参加学生・講師間で議論する。議論では、講師への質問にとどまらず、講師や他学生の発言を踏まえて、さらに議論を深めることを意識する。

#### B) 中間議論（各パートの 4 回目）

- ・3 回分の講義に基づき、パート共通の問いを設定し議論を行う。
- ・はじめに 4～5 名程度の班に分かれ学生のみで 2～30 分程度の議論を行い、班としての提案をまとめる。
- ・班として全体に発表し、他班の学生と議論を行う。
- ・最終回の議論・最終レポートに向けて、中間議論で自身が考えたことは各自まとめておくこと。
- ・中間レポートの提出：3 回分の講義の要点を簡単にまとめ、それらに基づき次の復興もしくは事前復興のあり方についての示唆を導出する。A4・2p 以内。箇条書きで構わない。（レポートは各講師にも共有するが批判的な内容も可）
- ・各パート締め切り：各 3 回目講義直後の金曜 17 時 ※ (1) = 4/30、(2) = 6/11、(3) = 7/2。

#### C) 最終回

- ・3 パートでの議論・示唆を踏まえて、また重要であると考えられることを検討し、復興デザインを実践する際に考慮しておくべきこと、特に具体的にそうした実践によって現れる違い・成果、実践する際に課題と考えられることなどを議論する。
- ・はじめに、4～5 名程度の班に分かれ学生のみで議論し、その後全体で議論を行う。
- ・各自、最終回に議論すべき論点・キーワードを箇条書きで簡単にまとめ提出（7/9（金）17 時まで）。

#### D) 最終レポート

- ・最終回を含む全ての回の議論を踏まえて、次の大災害の際の復興において考慮すべきこと、特に具体的にそうした実践によって現れる違い・成果、実践する際の課題や事前復興への示唆等について考えを、A4・6～10 ページ程度で述べよ。
- ・締め切り：7/30（金）17 時

**【スケジュール／講師と内容】**

## (1) 住生活・住環境の再建

- ①0405 大月敏雄 東京大学教授(建築学専攻) 関東大震災同潤会 ※ガイダンス
- ②0419 西野淑美 東洋大学准教授(社会学) 住宅の再建プロセス
- ③0426 佃悠 東北大学准教授 住宅の復興 東北復興のメカニズム
- ④0510 中間議論1 (北原麻理奈)

## (2) モビリティ(移動・避難)

- ⑤0517 近藤民代 神戸大学准教授 ハリケーンカトリーナ
- ⑥0524 勝田俊輔 東京大学教授(西洋史) アイルランド大飢饉(救済政策/移民/社会的影響)
- ⑦0531 横張真 東京大学教授(都市工) 福島・浪江復興/帰還困難区域
- ⑧0607 中間議論2 (萩原拓也)

## (3) 都市・地域の計画

- ⑨0614 江川直樹 関西大学名誉教授 阪神淡路大震災・空間の質
- ⑩0621 佐藤慎司 高知工科大学 海岸都市のリスクと減災まちづくり
- ⑪0628 三宅諭 岩手大学准教授 漁村の復興 漁村の復興の実情
- ⑫0705 中間議論3 (浦田淳司)

## (4) 最終議論

- ⑬0712 学生議論(本田利器)

**【成績評価】**

・各回の出席、最終レポート、最終回での発表、質疑応答による。

※中間レポートは評価に含めません。

**【課題等の提出先】**

ITC-LMSにて提出

**【オンライン授業 URL】**

<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/82187967168?pwd=ejlVaNTRJazVOVzRBVjhkS21vVlpxQT09>

ミーティング ID: 821 8796 7168

パスコード: 580146

## 【参考文献】※随時更新

## ①4/5 大月先生

- 1) 大月敏雄「建築写真類集 木造小住宅」『家とまちなみ』, 2012
- 2) 塩崎賢明、原田賢使「被災地における自力仮設住宅の建設実態」, 日本建築学会計画系論文集 64(519), 179-186, 1999
- 3) 宮定章「被災者の所有する敷地に設置する応急仮設住宅の研究」2019
- 4) 長谷川崇、岩佐明彦ほか「応急仮設住宅における居住環境改変とその支援」『日本建築学会計画系論文集』2007
- 5) 田中傑, 関東大震災復興区画整理後の建築活動と居住者の変容の実態, 日本建築学会計画系論文集, 2002
- 6) 平田隆行 水害と水上げ小屋 『建築雑誌』2019, 3

## ②4/19 西野先生

## ③4/26 佃先生

- 7) 佃悠, 山野辺賢治, 小野田泰明: 災害公営住宅入居登録者の登録までの住宅再建意向変化とその要因, 日本建築学会計画系論文集, 第82巻, 第731号, pp.1-9, 2017.1
- 8) 佃悠, 横田小百合, 小野田泰明: 大規模災害後の住宅再建意向決定の要因と仮設居住による影響, 日本建築学会計画系論文集, 第84巻, 第756号, pp.311-321, 2019.2
- 9) 佃悠, 石井敏: 高齢者の自立的生活を支える共助型集合住宅に関する研究: 相馬井戸端長屋を事例として, 住総研 研究論文集・実践研究報告集 No.45, pp.95-106, 2019.3
- 10) 佃悠, 長谷川京子, 小野田泰明: 大規模災害後の地域コミュニティの回復に関する研究—宮城県七ヶ浜町の東日本大震災被災地区の地区イベント再開状況から—, 日本建築学会計画系論文集, 第86巻, 第781号, pp.859-868, 2021.3
- 11) 小野田泰明, 加藤優一, 佃悠: 災害復興事業における計画実装と自治体の組織体制: 東日本大震災における宮城県の復興事業を対象として, 日本建築学会計画系論文集, 第80巻, 第717号, pp.2523-2531, 2015.11
- 12) 小野田泰明, 関根光樹, 佃悠: 大災害からの住環境復興事業と計画実装自治体の負荷そして組織体制, 日本建築学会計画系論文集, 第86巻, 第781号, pp.849-858, 2021.3
- 13) 鈴木さち, 小野田泰明, 佃悠: 大規模災害後の住宅再建支援事業の資金配分とマルチステークホルダーの関与: 東日本大震災、ハリケーン・カトリーナ、インド洋津波を事例として, 日本建築学会計画系論文集, 第84巻, 第758号, pp.925-933, 2019.4

## ⑤5/17 近藤先生

## ⑥5/24 勝田先生

## ⑦5/31 横張先生

## ⑨6/14 江川先生

- 1) 江川直樹, 「集まって住むカタチのデザイン」から大学連携地域再編まちづくりへ
- 2) 江川直樹, 公営住宅が街の風景に同化する 芦屋市営若宮町住宅

- 3) 集合住宅と戸建て住宅が混在共棲するふつうの街への再生,関西大学戦略的研究基盤団地再編リーフレット,Vol.90.2012,
- 4) 江川直樹,場所の声を聞く 集まって住むカタチのデザイン,関西大学出版部
  - 人間サイズの街の再生 芦屋市・若宮地区震災復興のまちづくり,pp46-53
  - 住宅で見守られるみんなの広場を創出する再生 神戸市・六甲道駅南震災復興再開発ウエルブ6番街,pp64-73
  - 山と海をつなぐ海浜住宅地の暮らしの風景の創出,pp74-83

⑩6/21 佐藤先生

⑪6/2 三宅先生

- 1) 岩手県野田村の復興まちづくりにおける小中高参加による都市公園事業の総括 (2018年都市計画学会)
- 2) 高台住宅地における「暮らしのデザイン」の試み,震災復興から俯瞰する農村計画学の未来:農林統計出版
- 3) デザインが編むさまざまな空間 (2018年度日本建築学会大会都市計画部門研究協議会資料)
- 4) 東日本大震災合同調査報告書 都市計画編 2015,※山田町の復興計画